校訓《自律と創造》　貝塚市立第四中学校

四中だより

平成28(2016)年　11月号　TEL433-1340　FAX433-1823
校長室から　井出　博　http:/ /www. kaizuka.ed.jp/dai4-jh/

☆第３８回【中学生の主張～伝えよう！君のメッセージ～】
最優秀賞“大阪府知事賞”
一森　風和里＜みんなの第一歩＞
優良賞
降井　名月＜ありがとう＞

９／３（土）大阪市立阿倍野区民センターにて、１９５１作品の中から入選した１０作品の発表がありました。我が四中から２作品が選ばれ、優秀な成績を修めました。藤原貝塚市長への表敬訪問が予定されています。

《表彰》

☆貝塚市英語暗唱大会
優秀賞　２年　酒巻咲良
優良賞　３年　金本大空・張　珠煐
２年　吉田心音
１年　山﨑あやな・今和泉善央

☆泉南地区英語暗唱大会
優秀賞　３年　張　珠煐

☆第６２回青少年読書感想文貝塚地区コンクール
優秀賞　３年　山田莉穂
入　選　３年　川崎こころ

☆巨大垂れ幕

特選　３年　柴田涼夏

佳作　３年　金本大空・松浦来未

２年　竹之下絢音

１年　張　世喜

☆貝塚市科学作品展

✡研究記録部門

銅賞　２年　竹之下絢音

１年　松本琉華・武本遥輝

✡工作採集

銀賞　３年　大番友暉

平成 28 年度　全国学力・学習状況調査のまとめ

今年の４月、３年生対象の全国学力・学習状況調査（国語と数学、生活・学習アンケート）が行われました。生徒の個人結果につきましては、すでに各ご家庭にお渡ししておりますが、この度は、調査結果の主な傾向と今後の取り組みついてお知らせいたします。

≪１≫学力調査結果の主な傾向

【国語】・A・B 問題ともに、大阪府の平均値を下回っている。ただし、極端に点数が悪い生徒が多いわけではないので、中間層の基礎的な学力の定着を図る必要がある。

・漢字や語句の知識はよく身についている。その一方でいくつか条件指定のある複雑な問いの無回答率が高い。

【数学】・A・B 問題ともに、角度を求めたり、表から適する数を求めるなど、具体的な数を扱い計算する問題に対しては理解力が高い。しかし、事象をグラフで表したり、言葉で説明することに対しては苦手とする生徒が多い。

・大阪府、全国と比べ無回答率が高い。理解しづらい問いに対してあきらめてしまう傾向がある。

・数学の勉強を大切だと思い、できるようになりたいと考えている生徒の割合が高い。解き方、考え方が理解できるようにノートに書いている割合が高いことから頑張りたいと努力する姿が見える。

《２》生活・学習アンケート調査結果の主な傾向

【自尊感情について】

・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の質問項目については肯定的意見が 94%あり、府平均を上回っている。四中では部活動を 3 年間継続している割合も高く、達成感を感じている生徒も多い。

・「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の項目に関しては、府平均を下回っており、自尊感情の低さが最近の四中生の課題である。

【学校生活について】

・「学校に行くのは楽しいと思いますか」は府平均より 2.5 ポイント、全国平均より 0.6 ポイント高い。

・「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」は 86.7%と府平均よりも 7.0 ポイント高く、全国平均より 2.5 ポイント高い。体育大会、合唱コンクールなどの学校行事に向けて、生徒会のキャンペーン活動や仲間づくりの意識がアンケート結果につながっていると考えられる。

【家庭学習について】

・「家で、学校の授業の予習をしていますか」は府平均より 5.2 ポイント高く、「家で、学校の授業の復習をしていますか」は 15.1 ポイント高い。復習については昨年度よりも 2.1 ポイント伸びており、自主学ノートの取り組みの成果が表れている。

【生活習慣について】

・「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問項目についてはともに 92%以上肯定的で、府平均を上回っており、生活習慣の安定が子どもたちが落ち着いて学校生活を過ごせることにつながっている。

・携帯電話の所持率は府平均よりも 5.0 ポイント高く、「一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」は 3 時間以上と答えた生徒が 27.4%と府平均より 4.5 ポイント高い。携帯電話との付き合い方が新たな課題である。

【規範意識について】

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」は肯定的意見が 97%あり、府平均より 5.1 ポイント、全国平均より 3.7 ポイント高い。校区で幼小中と「仲間づくり」を柱に取り組みを進めている成果が表れている。
・「人が困っているときは、進んで助けていますか」は 85%、「人の役に立つ人間になりたいですか」は 96%となり、ともに府平均より 4 ポイント高く、人との関わりを大切に感じている生徒が多い。

【授業づくり】

・「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」は府平均より、4.7 ポイント高く、全国平均も上回った。

《３》学力向上に向けた今後の取組

【学力向上の面から】

・スクールエンパワメント推進事業を受け、校区小学校と連携しながらユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを推進する。
・「四中の５つの授業スタンダード」をもとに授業づくりを進める。
〇提示物や黒板周りを整理し、見やすくする
〇時間の最初に、この時間のねらい（めあて）と流れを明確にする
〇授業の振り返りを行う
〇授業中いつでも振り返られる板書を計画する
〇具体的な行動で指示を出す
・学期に一度の研究授業に加え、定期的に校内公開授業を行い、教職員が互いの授業力を高める取り組みを進める。
・子ども同士の話し合いを今後も継続しながら、多様な価値観に多く触れる授業に取り組む。
・基礎基本の定着・活用・応用力を付けるために少人数授業や習熟度別授業など、授業形態を工夫する。